



2020年8月5日

PI 11155 RB Mz/Bär

クライメートニュートラル: ボッシュが再生可能エネルギーの供給体制をさらに拡充

太陽光発電による電力の購入に関して3件の長期契約を締結

- ▶ 戦略の推進: 新型コロナウイルス感染症のパンデミック(世界的大流行)下においてもなお、クライメートアクションの目標に向けて邁進
- ▶ 対応の強化: 生態学の見地からカーボンニュートラルの品質をさらに向上
- ▶ 「新クリーン電力」: RWE、Statkraft、Vattenfall との長期的な電力購入契約を締結
- ▶ 自家発電: ボッシュは2019年、年間2万2,000メガワット時の発電能力を備えた18基の新しい発電システムを建設

シュトゥットガルト(ドイツ) – 再生可能エネルギーは、クライメートニュートラルの実現に向け、企業が大きく調整することのできる主要な分野です。ボッシュは、各拠点での自家発電をさらに推し進めており、新たに建設されたウインドパークやソーラーパークから長期的に再生可能エネルギーの供給を受けることも確定しています。そのために、グローバル規模で革新的なテクノロジーとサービスを提供するボッシュは、プロバイダーである RWE、Statkraft、Vattenfall との間で、太陽光発電を利用した電力の長期独占購入契約を締結しました。新型コロナウイルス感染症のパンデミックがもたらす厳しい状況下においても、ボッシュは極めて意欲的なクライメートアクション計画を推し進めます。「気候変動の進行は、少しも止む心配がありません。したがって、私たちの取り組みも手を緩めるわけにはいきません。ボッシュは2020年末までに、カーボンフットプリントを一切残さないという野心的な目標を達成できる見通しです」と、ボッシュ・グループ CEO のフォルクマル・デナーは述べています。ボッシュは、世界中に400あるすべての拠点において、クライメートニュートラルを実現することになります。ドイツ国内の拠点では、2019年末からすでにクライメートニュートラルを達成しています。「エネルギー転換へ向けた私たちの取り組みは、2020年以降も継続します。再生可能エネルギーへの投資が、その重要な証です」とデナーは付け加え、クライメートアクションにはコストがかかるものの、エネルギー効率向上のための投資は特にコスト削減にもつながるため、何も対策を講じなければさらにコストがかかると説明しました。

ポッシュは生態学の見地からカーボンニュートラルの品質をさらに向上

カーボンニュートラル実現のために、ポッシュは再生可能エネルギーに加えて、各拠点におけるエネルギー効率の改善に向けた投資に特に力を入れています。今後 2030 年までに、この 2 つの施策を段階的に強化することで、生態学の見地からのカーボンニュートラルのさらなる品質向上を図ります。また、短期的な効果が見込める対策として、既存の発電所からグリーン電力を調達することで、さまざまなクライメートアクション施策でも避けることのできない CO₂ を完全にオフセットしています。「2020 年のカーボンニュートラル対策におけるカーボンオフセットの割合は、当初の計画よりも大幅に低下する見込みです。言い換えれば、私たちが取っている対策の質的向上が、予測以上に進んでいると言えます」と、デナーは述べています。ポッシュは、自社のエネルギー消費に占める再生可能エネルギーの割合を大幅に上げることを目指します。新たに締結した 3 件の太陽光発電による電力購入の長期契約は、この目標達成を後押しするものであり、またエネルギー転換の推進を後押しするものでもあります。ポッシュの 2019 年における世界全体での総 CO₂ 排出量(スコープ 1+2)は約 194 万トンで、これはすでに前年度のおよそ 3 分の 1 以下に削減されているということになります。

新しいソーラーパークから 10 万メガワット時を調達

ポッシュは、新たに契約した RWE、Statkraft、Vattenfall 各社の発電所から独占的に電力の供給を受ける予定です。この電力は、3 つのサプライヤーの補助金をまったく受けていないソーラーパークから公共の送電網を介して供給され、ドイツ国内のポッシュの拠点で消費されます。これにより、2021 年以降は年間あたり合計 10 万メガワット時以上をカバーできる予定で、これは最大で一般家庭 3 万世帯、またはポッシュのフォイヤバッハの拠点の電力消費量の 70% に相当します。太陽光発電の条件が最適であれば、フォイヤバッハ、ホンブルク、バンベルクの工場の電力需要を同時に最低でも数時間は満たせるだけの、十分な最大出力が得られる見込みです。今回の長期契約の締結は、ポッシュのグリーン電力調達の一部に代わるもので、契約期間は 12 年から 16 年となっています。Statkraft 社からはすでに、5 月から電力が供給されています。

ポッシュ・グループは、ドイツ国外でも同様の長期契約の締結を目指しています。例えばメキシコでは、すでに最大でエネルギー需要の 80% がこのような新クリーン電力で賄われています。メキシコの多くのポッシュ工場では、新たに契約した大手エネルギー会社 Enel 系列の風力発電基地から、年間約 10 万 5,000 メガワット時の電力供給を受けています。Enel 社とは、15 年にわたるパートナーシップ契約を締結しています。

太陽熱から水素まで: 自家発電でエネルギー需要をカバー

ポッシュは、再生可能エネルギー資源を利用した電力の独占購入に加え、自家発電の拡充も進めています。自社工場に設けた約 50 基の太陽光発電システムによる現在の年間発電量は、およそ 6 万メガワット時です。インドのナシク工場には、このタイプではインド国内の自動車業界最大となる発電所があります。ポッシュは 2030 年までに、拠点内での再生可能エネルギーの供給を合計 40 万メガワット時まで拡大させる計画です。2020 年中に完成予定のタイのヘマラート工場の太陽光発電システムは、年間あたり 1,300 メガワット時の発電量が見込まれています。

さらにボッシュは、水力発電およびバイオマス発電のプロジェクトも進めています。水素から熱や電力を製造するような新しい手法も、エネルギー供給の手段として組み込まれています。昨年は、ボッシュが開発した定置用燃料電池のプロトタイプが、ホンブルクおよびバンベルクの拠点で稼働を開始しました。ピーク時の電力需要はすでにこの燃料電池でカバーされています。ザルツギッターでは、フラウンホーファー研究機構およびその他の現地企業と連携して、水素キャンパスとして知られる水素センターを設立しました。資金はニーダーザクセン州に加えてザルツギッター市からも提供されています。ヴェルナウのトレーニングセンターでは、6月末に、固体酸化物形燃料電池(SOFC)技術を利用したSOFCシステムが稼働を開始しました。テューリンゲン州では、アイゼナハにあるボッシュ工場のビーコンプロジェクトが進行中で、2022年までに太陽光発電システムを利用した自家発電および風力発電による電力の独占購入契約で電力需要を賄うとともに、AIを利用した高度なエネルギー管理で需要を最低限に抑えます。

詳細情報:

ファクトシート: [ボッシュが各工場で開催するクライメートアクション](#)

インフォグラフィック: [エネルギー効率に優れた生産 - 明日の工場の姿\(英語\)](#)

CO₂に関するアドバイス サービス: [ボッシュ、CO₂アドバイザリーサービスの提供により製造会社のクライメートニュートラル達成を支援](#)

[2019年サステナビリティレポート\(英語\) - Factbook](#)

[2019年サステナビリティレポート\(英語\) - Spotlights](#)

報道関係対応窓口

Agnes Mazzei

電話: +49 711 811 38140

Twitter: @AgnesMazzei

世界のボッシュ・グループ概要

ボッシュ・グループは、グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディングカンパニーです。2019年の従業員数は約40万人(2019年12月31日現在)、売上高は777億ユーロ(約9.5兆円*)を計上しています。現在、事業はモビリティソリューションズ、産業機器テクノロジー、消費財、エネルギー・ビルディングテクノロジーの4事業セクター体制で運営しています。ボッシュはIoTテクノロジーのリーディングプロバイダーとして、スマートホーム、インダストリー4.0さらにコネクテッドモビリティに関する革新的なソリューションを提供しています。ボッシュは、サステナブル、安全かつ魅力的なモビリティを追求しています。ボッシュはセンサー技術、ソフトウェア、サービスに関する豊富な専門知識と「Bosch IoT cloud」を活かし、さまざまな分野にまたがるネットワークソリューションをワンストップでお客様に提供することができます。ボッシュ・グループは、AI(人工知能)を搭載する、もしくはAIが開発・製造に関わった製品を提供することで、コネクテッドライフを円滑にすることを戦略目標に掲げています。ボッシュは、革新的で人々を魅了する全製品とサービスを通じて生活の質の向上に貢献します。つまり、ボッシュはコーポレートスローガンである「Invented for life」人と社会に役立つ革新のテクノロジーを生み出していきます。ボッシュ・グループは、ロバート・ボッシュ GmbH とその子会社440社、世界約60カ国にあるドイツ国外の現地法人で構成されており、販売/サービスパートナーを含むグローバルな製造・エンジニアリング・販売ネットワークは世界中のほぼすべての国々を網羅しています。ボッシュの未来の成長のための基盤は技術革新力であり、世界126の拠点で約7万2,600人の従業員が研究開発に、約3万人がソフトウェアエンジニアリングに携わっています。

ボッシュの起源は、1886年にロバート・ボッシュ(1861～1942年)がシュトゥットガルトに設立した「精密機械と電気技術作業場」に遡ります。ロバート・ボッシュ GmbH の独自の株主構造は、ボッシュ・グループの企業としての自立性を保証するものであり、ボッシュは長期的な視野に立った経営を行い、将来の成長を確保する重要な先行投資を積極的に行うことができます。ロバート・ボッシュ GmbH の株式資本の92%は慈善団体であるロバート・ボッシュ財団が保有しています。議決権の大半はロバート・ボッシュ工業信託合資会社が保有し、株主の事業機能を担っており、残りの株式は創業家であるボッシュ家とロバート・ボッシュ GmbH が保有しています。

*2019年の為替平均レート、1ユーロ=122.0058円で計算

さらに詳しい情報は以下を参照してください。

www.bosch.com ボッシュ・グローバル・ウェブサイト (英語)

www.bosch-press.com ボッシュ・メディア・サービス (英語)

<https://twitter.com/BoschPresse> ボッシュ・メディア 公式ツイッター (ドイツ語)

www.bosch.co.jp/ ボッシュ・ジャパン 公式ウェブサイト (日本語)

<https://twitter.com/Boschjapan> ボッシュ・ジャパン 公式ツイッター (日本語)

<https://www.facebook.com/bosch.co.jp> ボッシュ・ジャパン 公式フェイスブック (日本語)

<https://www.youtube.com/boschjp> ボッシュ・ジャパン 公式 YouTube (日本語)